

形式はいかにもきちっと形質分布表ができて、コンピューターを使って解析されたとしても、実態は実につまらん形質を取り上げているというような論文もたくさんございます。そういうところに、この分子分類学が導入されてきました。しかしながら、甲虫全体の系統というのは、今までの情報に関する限り、この分子分類学が入ってきてから報告された大きな分類体系というのは、クロウソンのころからあんまり変わっていないようですね。また、最近では、分子情報をバーコードとして、だれでも、調べればすぐ名前がぱっとわかるような、そういうことを主張している人たちもでてきました。そうなると、本当の分類学者はいらなくなるわけですね。誰でも同定できるということになる。ただですね、それほど分っている分類群があればの話です。甲虫みたいにまだ、これから何倍にも増えそうなグループだということに、ぱっとこれで、バーコードでこれだといって、それがそうだというのを誰が判断するかということですね。まだ、知られてない種がうんとありますからバーコードというのを甲虫で適用できるグループというのは今のところまだ限られているかなと思ってま

す。それから、分子分類学で、例えば、Carabidae の分類は、非常に良い業績があげられたのですが、Carabidae の科全体の分類体系の論文を見ていますと、ある部分のところだけ早く置き換わりが起こっていくということがあって、何となくうまくいかないと、そこを除いてしまえば、今の分類体系と非常に整合がいいんだけど、そこを除くというのがどうも人為的なことになるというようなことがあります。だから、このところは実は、従来の分類体系が十分に研究されたグループの上に分子分類学が入ってくると、非常に効果が大きくなるだろう、と私は思っております。

大林: どうもありがとうございます。今日は会社が不慣れで、十分な打ち合わせもできていなかったもので、スムーズな運びにはなりませんでしたが、そろそろお約束の時間が来ております。3先生方ありがとうございました。これで、今日の座談会を閉めさせていただきたいと思っております。

【短報】屋久島産コクヌスト科2種の記録

コクヌスト科の種は、オオコクヌスト以外はどれも採集が困難で、ハロルドヒメコクヌストはやや少なく、ケマダラヒメコクヌストはさらに少ない種のようなのである。

筆者は屋久島産の以下の2種の標本を見出したので報告する。岡留(1973)、中根(1985)、および屋富祖(2002)によると、これら2種は屋久島未記録と思われる。なお、種の同定は、宮武(1985)を参考とした。

ハロルドヒメコクヌスト *Ancyrona haroldi* Reitter
1ex., 鹿児島県熊毛郡屋久町原, 25. V. 2003, 向山敬延採集。

ケマダラヒメコクヌスト *Ancyrona shibatai* Nakane
1ex., 同上, 17. V. 2003, 向山敬延採集。

標本を提供していただいた向山敬延氏、これらの種についてご教示いただいた平野幸彦氏にお礼申し上げる。



図1-2. 屋久島産コクヌスト. 1, ハロルドヒメコクヌスト; 2, ケマダラヒメコクヌスト。

引用文献

- 宮武睦夫, 1985. コクヌスト科, p. 150. pl. 24. 黒澤良彦ほか, 原色日本甲虫図鑑 (III), 保育社, 大阪.
中根猛彦, 1985. 屋久島に産する甲虫類について, pp. 587-631. 環境庁自然保護局編, 屋久島の自然.
岡留恒丸, 1973. 屋久島の昆虫相. 179 pp., 7 pls. 屋久島教育委員会.
屋富祖昌子ほか編, 2002. 琉球列島産昆虫目録増補改訂, 沖縄生物学会.

(兵庫県西宮市 田中 稔)